

普及活動検討会実施報告書

大河原農業改良普及センター

実施月日： 令和6年 2月16日

実施場所： 宮城県大河原合同庁舎

1 検討内容

No	検討項目
1	令和5年度プロジェクト課題の活動成果について No.1 地域農業の維持・発展に向けた地域計画の作成と実践 No.2 地域特産とうもろこし、そらまめの生産振興による直売所の販売額拡大
2	令和6年度普及指導方針(案)について
3	令和6年度プロジェクト課題(案)について
4	総合意見交換

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	2	生活者	1
若手・女性農業者		学識経験者	1
市町村	1	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果(コメント, 評価表の要約)	普及センターとしての対応方向
検討課題(プロジェクト課題No.1) 「地域農業の維持・発展に向けた地域計画の作成と実践」	4.0	<ul style="list-style-type: none">地域計画の作成・実践は、地理的状況や地区内農業者の状況により多様なものとなるため、地域の課題を抽出し、意見を出し合い、担い手による討論がしっかりなされていることは評価できる。今後は、新規就農者をはじめとする担い手の育成と支援が重要ではないか。地域計画を作成するに当たっては、構成メンバーの中に次世代の方に加わってもらう必要がある。現状維持ではなく、新たな挑戦をしながら新しい農業を創出するという意気込みが大切。身内の後継ぎだけではなく、地域おこし協力隊の活用等、	<ul style="list-style-type: none">今後とも地区の話し合いが円滑に進むよう、若い担い手への個別支援も並行して活動して参ります。関係機関や団体と連携を密にし、地域外からの人材確保も視野に入れると共にその手法及び地域への提案も検討しながら、話し合いが進むよう活動して参ります。

		異業種、異地域から新規就農者が誕生するよう、町全体で共に新たな農業のあり方を創出して欲しい。	
検討課題（プロジェクト課題 No. 2） 「地域特産とうもろこし、そらまめの生産振興による直売所の販売額拡大」	4.0	<ul style="list-style-type: none"> 一過性にならないよう管理体制、安定した品質の維持のため生産者（出荷者）としての意識の高揚、定着が引き続き必要と思われる。また、出荷規格については早急に検討すべきではないか。 対象者が熱心に研修に取り組み、かつ成果を確実に出しており、普及センターの活動が好循環につながっていると感じられる。一方で、生産をもっと上げる必要があると感じられるので、更なる生産性向上への取り組みをして欲しい。 研修会開催、そら豆通信や SNS 活用等の発信の取り組みはとても良い。購買者にも、QR コードを販売チラシに掲載する等して、作業状況等を閲覧できるようにしてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 更なる対象者の意識高揚、定着が進むよう、引き続き活動して参ります。また、出荷規格についても、引き続き運営団体と連携しながら検討して参ります。 更なる生産性向上につながるよう、引き続き活動して参ります。 これまでも、イベント等に合わせ新聞等の媒体を活用した情報発信を行っておりますが、今後は SNS を活用した生産現場の情報発信等も運営団体へ提案して参ります。
令和 6 年度普及指導方針（案）について	4.2	<ul style="list-style-type: none"> 「みどり認定」について、仙南地域でも認定者が増える事を期待している。その際は、みどり戦略の目的を対象者にきちんと伝えて欲しい。 RTK の活用なども含め、引き続きスマート農業技術への支援を行って欲しい。 気候変動の影響について、今後も注視しながら支援して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 制度の趣旨をきちんと説明しながら、関係機関と連携し、生産者への周知に努めて参ります。 農業の担い手減少に対応するものとして、スマート農業技術への期待が高まっておりますので、今後とも関係機関と共に支援していきます。 国や試験研究機関等と連携し、農作物の安定生産につながるよう取り組んで参ります。
令和 6 年度プロジェクト課題（案）について	3.7	<ul style="list-style-type: none"> 若手果樹生産者への取り組みは、横のつながりが出来てきており、また実際に消費者とやり取りする機会を設ける事は、互いのやる気につながっていると感じる。今後も支援して欲しい。また、他県で若手生産者が活躍している事例に視察に行くのも良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 頂いたご意見を念頭に置きながら、よりよい成果が出るよう、引き続き令和 6 年度も課題として取り組んで参ります。

		<ul style="list-style-type: none"> ・たまねぎの生産拡大については、品質・収量の向上も必要だが併せて作業の効率化や運搬、保管など総合的な対策が必要と思われる。先進的な取り組みを成功させ、新たな農業の創出を仙南地域から発信できるよう頑張りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・JAや生産者等と更に連携し、流通、販売面も含め各事業を活用しながら、それぞれの役割で生産拡大が進むよう、引き続き活動して参ります。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・管内小中学校を対象に実施した花苗寄せ植え体験等、若年層に農業に触れる経験をさせることは、未来の担い手確保に大きく寄与するものと思われる。また、高校の授業を活用し、若手農業者の取り組み事例等を紹介したのは、若者の「農業」への意識を高め、地元で農家になるという選択肢を教える大変良い機会であり、継続して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層に農業への興味を持ってもらうことは、非常に重要な事と考えております。今後も機会を捉えて農業青年クラブ（4Hクラブ）員等の地元生産者と連携しながら、若年層を対象にした活動を行って参ります。

※：検討項目数に応じて欄を追加し記載する。